

2020年7月26日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第8主日（特定12） 説教

「天の国の小さなしるしは私たちの中に」

〔旧約聖書〕	列王記上 3:5~12
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 8:26~34
〔福音書〕	マタイによる福音書 13:31~33、44~49

主の平和が皆さんと共にありますように。

「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を我らに与えたまえ。

変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできないものを選別する知識を与えたまえ。」

（ラインホルド・ニーバーの祈りより）

牧師であったニーバーの祈りで、私が大切にしている言葉です。

旧約聖書で列王記上3章5節~12節が選ばれております。神はソロモンに「何事でも願うがよい。あなたに与えよう。」（列王上3:5）と言われ、彼は「どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。」（列王上3:9）と答え、「知恵」を求めました。神はこの願いをたいそう喜ばれ、ソロモンに「正しく聞き分ける知恵」（列王上3:11）を与えました。「ソロモンの知恵」で有名な物語があります。本日の聖書には選ばれていませんがこんな話です。

あるとき、二人の女性がソロモン王の前に現れました。二人は一人の赤ん坊を巡ってどちらが本当の母親であるか王の知恵を頼ってきたのです。王は家来に剣をもって来させ、二人にこの剣で赤ん坊を半分に切り、半分ずつ持っていきなさいと提言しました。すると片方の女性は「分かりました」といい、もう一人は、そんな事したら赤ちゃんが死んでしまうので私はこの赤ちゃんを託そうとしました。

ソロモンはすぐに本当の母親が誰であるか分かりました。皆さん、おわかりですか。

そうです。本当の母親は後者です。

ソロモン王の時代はイスラエル王国が栄華を極めた時代でした。しかし、その栄華も長くは続かず、イスラエル王国は滅び、南北に分裂してしまいます。知恵ある王であったソロモンも失脚してしまいます。

知恵を求めた彼を神は大変喜ばれました。神の前にへりくだり、謙遜な姿勢、神を信頼する生き方をしようとする時に神様は本当に喜ばれます。しかし、人間はそう長続きしません。

福音書に心を向けましょう。3週続けてマタイ13章の「天の国（神の国）」のたとえが選ばれています。本日は「からし種」「パン種」をイエス様を取り上げ、天の国について教えてください。

神様は「まことの平和な状態（シャローム）」の完成のために日々働かれています。そして私たちをその働きに参与するように招き続けてくださっています。私たちはその招きの恵みを受けながらも行ったり来たりしています。先週の福音書「麦」と「毒麦」のたとえ、先々週のたとえ「種まき」のたとえにおける4つの蒔かれた地面の状態を思い起こしてみましょう。それらはすべて私たち人間に当てはまります。この世界、そして私たちは常に「麦」と「毒麦」が混在し、また種が蒔かれた4つの状態もすべて心の内に内在するのです。神様はその事を十分に分かっておられながら、人間の自由意志、そして神に従おうとする姿勢を喜ばれ、受け入れるように手を広げておられるのです。ソロモンもそうです。イエス様の弟子たちもそうです。そして私たちもそうです。

我が家ではホームベーカリーがあって、朝食のパンを2日に1回ほど焼いているのですが、パンを焼くには「イースト」が必要です。一斤のパンに必要な材料は小麦粉250グラムにさとう、塩、バター、生クリーム、水、そして「イースト」なのですが、必要な量はわずか3グラムです。それでもこの3グラムがないとパンは膨らみません。当然すべての材料は混ぜてしまいますのでパン種の存在は見分けることは出来なくなっています。

天の国のしるしも本当に小さいものです。しかし、そのしるしは確かに存在し、成長し続けているのです。善も悪もすべて混在し、喜び、愛、悲しみ、怒り、恨み、嫉妬、差別、偏見、自己中心性などがうごめいている私たちの中にも天の国のしるしである小さく、しかし絶対に必要な「からしだね」、「パン種」があることをイエス様は信じているのです。それはイエス様の私たちに対する信頼でもあると思うのです。私たちがイエス様を信頼する以上に、イエス様は私たちの中にある天の国のしるしをどこまでも忍耐の内に信頼してくださっているのです。

だからこそ、私は冒頭のニーバーの祈りを思い起こすのです。「変えることのできるもの」、「変えてはいけないもの」は同時に私たちの世界、そして私たちの中にあります。ですからそれらを選別することは容易ではなく、人間の力だけでは無理です。だからこそそれらを選別することが出来るように私たち

もイエス様を信頼し祈らなければなりません。天の国のしるしは本当に小さいもので、消え入りそうになっているかもしれません。しかし、それらは決して消えることはないと言聖書は語ります。

そして、私たちが決して勘違いしてはいけないことは、その小さなしるしを「自分たち」の手で大きくしていこうと思っははいけません。あくまでもそれらを成長させていくのは神様の働きです。私たちはその神様の働きに参加させて頂くのです。神様が何をなさろうとされているのか私たち一人一人がそれぞれ考え、「しるし」を見つけ、分かちあっていくことが大切なのです。